

第67回全九州高等学校登山競技大会 出場選手・監督各位
九州各県高体連登山専門部専門委員長各位

第67回全九州高等学校登山競技大会
審査委員長 藤本裕人
(公印省略)

審査に関する連絡（重要）

時下、各位におかれましては、全九州高等学校登山大会を控えてお忙しい毎日をお過ごしのことと存じます。

さて、今年度開催の第67回全九州高等学校登山大会の審査について、下記のように連絡いたします。つきましてはご確認の上、大会に臨まれますようお願い申し上げます。また、大会は、競技の場であるとともに、教育の場でもあることを共通の理解として頂ければ幸甚に存じます。

審査は、先日各県専門委員長を通じて配付された、「登山部報第67号」に記載の全国高等学校登山大会成績評価実施要領「全国高等学校登山大会<審査基準と指導目標>」と「全国高等学校登山大会審査確認事例」、「チーム行動について」、「班離脱・隊離脱・行動離脱・棄権についての整理・確認」「登山大会服装規定」に準じて行います。「予報」と併せ、熟読の上、大会に臨まれますようお願い申し上げます。

1 計画書の作成について

- (1) 計画書は上記の全国高等学校登山大会<審査基準と指導目標>のⅢ.知識、8.計画書の「審査細目」の欄にある項目順となるように作成してください。（参照：審査確認事例8(3)）
- (2) 概念図は令和4年度より開催県事務局の作成を廃止しました。計画書の概念図の範囲については国土地理院発行の「韓国岳」・「日向小林」・「霧島温泉」・「高千穂峰」及び「九州高体連ウェブサイトに掲載のコース地図」図幅とします。
- (3) 計画書の作成に当たっては、各参加パーティー単位で全てを自作してください。（参照：審査確認事例8(2)）
- (4) 計画書に記載すべき大会に関する内容は6月27日までに九州高体連ウェブサイトに記載された要項・予報・登山地図、及び今回「審査に関する連絡」で示した内容とし、それ以降変更等があっても計画書に反映させる必要はありません。
- (5) 監督リーダー会議時に提出できるよう準備をしてください。ただし、防水袋は不要です。

2 開会式終了後の審査について

開会式終了後に、以下の課題テスト、並びに審査を**同時に**実施します。同一の選手が複数の課題テスト・審査を受けることはできません。

- ①自然観察課題テスト（時間20分：1名）
- ②救急課題テスト（時間20分：1名）
- ③気象課題テスト（時間20分：1名）
- ④天気図作成（時間40分：1名）

3 課題テストについて（参照：審査確認事例ー7）

- (1) 自然観察、救急、気象のすべての課題テストに共通課題2点分を含めます。出題範囲は、①予報1号のP1～P3・P8、②九州高体連ウェブサイトに掲載の大会地図（以下大会地図）とします。
- (2) 自然観察課題テストは、共通課題に加え、予報1号のP1～P8、大会地図、1：25000地形図を活用するうえで必要な基礎事項、主な登山用語（「登山部報第67号」掲載）から出題します。実際の登山に役立つ知識の有無を審査する観点から、地図記号を書かせる、漢字表記の正誤を問題にする、といった出題は行いません。
- (3) 救急知識課題テストは、共通課題に加え、『登山の医学「予防とファーストエイド」』（「登山部報第67号」掲載）をもとに、傷病の予防や応急処置についての実践的な知識を問う内容を出題します。実際の登山に役立つ知識の有無を審査する観点から、漢字表記の正誤を問題にする出題は行いません。また、今回は標高2000m以上の

登山はありませんので、「7章 高山病」からの出題は行いません。

- (4) 気象知識課題テストは、共通課題に加え、統一学習資料「登山と気象知識」（「登山部報第67号」掲載）の「I 登山と気象」をもとに、気象現象の原因や仕組みと変化の傾向、気象に関する情報の活用、観天望気等についての実践的な知識を問う内容を出題します。実際の登山に役立つ知識の有無を審査する観点から、漢字表記の正誤を問題にする出題は行いません。
- (5) すべての課題テストは、黒色の油性ボールペンを用いて解答するものとし、消えるボールペンは使用しないでください。

4 天気図作成について（「登山部報第67号」のP.96参照）

「全国高等学校登山大会＜審査基準と指導目標＞」と「全国高等学校登山大会審査確認事例」、ならびに「登山部報第67号」掲載の統一学習資料「登山と気象知識」の「II 地上天気図の書き方」に基づいて審査を行います。

- (1) 作図時間は気象通報（録音）の放送開始から40分間です。
- (2) 天気図用紙は、「日本気象協会版ラジオ用天気図用紙1号（初級用）」を基にしています。

5 炊事審査について

炊事審査は通常通り行います。

6 設営・撤収審査について

設営・撤収審査は通常通り行います。

7 装備審査について

- (1) 装備審査は通常通り行います。＜審査基準と指導目標＞II.生活技術 3. 装備の「審査細目」に記載のものに関しては審査対象とします。
- (2) 装備（個人携行品）の「大会地図」について、実施要項の「13連絡事項」に「地図は、国土地理院1/25,000の「韓国岳」・「日向小林」・「霧島温泉」・「高千穂峰」をチームで1枚用意すること。」とあるとおり、国土地理院発行の原本については各パーティーに1枚（1図幅）あれば構わないこととし、残りの3名については大会地図を印刷（モノクロ可）して所持していれば構いません。

8 行動記録について

- (1) 「記録書」は令和5年度の全国大会と同様のフォーマットのものを使用します（不明な場合は各県専門委員長へお尋ねください）。
- (2) 「記録書」はA6縦サイズ、横書きで、2冊の分冊です。1冊のページ数は20ページです。それぞれ工夫して1日1冊で足りるように記入してください。
- (3) 第1冊目は、登山行動第1日目朝の引継式の際、第2冊目は、登山行動第2日目朝の引継式の際に配付します。より適切な防水の準備をしてください。
- (4) 「記録書」への記載は、日時の経過に沿って順次記載してください。審査確認事例の「9 行動記録」を参考にしてください。なお、行動1日目・2日目ともに「霧島自然ふれあいセンター」出発からとします。変更があれば、連絡します。
- (5) 「記録書」の提出については、行動中に指示があるので、提出できるように準備しておいてください。「記録書」が手元にない場合は審査の対象としません。

9 読図技術について

読図ポイントの記入に使用する黒色ボールペンは、0.5mm以下の太さの油性のものとし、消えるボールペンは使用しないでください。規定以外のボールペンで書いた場合は、0点となる場合もあります。

10 その他

- (1) 計画書（概念図・断面図等）の作成、および記録書の記入等の際し、開催県事務局から示された予報1号の大会コース案内「1日目：高千穂峰コース」「2日目：大浪池・韓国岳コース」に掲載されているアンダーラインが付された地点名を主要地点とします。
- (2) 自然観察課題テスト、救急課題テスト、気象課題テスト、天気図作成等で不正行為が認められた場合、当該のテスト（または審査）は0点とします。
- (3) 「班離脱・隊離脱・行動離脱・棄権」について
各隊の隊長はその権限において、参加選手の安全を最優先し、また、医師の進言などによって「離脱」を命ずることがあります。なお、監督団の山中における位置によっては、事後承諾という事態もあり得ることをご理解ください。
- (4) 「差し入れ」が「支援」と判定される場合があります。（参照：「登山部報第67号」審査確認事例12(7)）。ただし、大会本部より全チームに支給される物品・食品等については「支援」とは見なしません。また、登山行動中の選手と監督の接見は、コース隊長が認めた時だけとします。監督以外の部外者との接見についても同様とします。
- (5) 今大会のチーム行動について（全国大会のチーム行動に準じます。「登山部報第67号」掲載の「チーム行動について」を確認してください。）
 - ア チーム行動中、選手と監督とは別行動となります。
 - イ チーム行動中も通常通りの審査を行います。
 - ウ チーム行動中は先頭にコース副隊長、最後尾にコース隊長が位置します。
先頭のコース副隊長を追い越さず、また、最後尾のコース隊長に遅れることのない歩行ペースで行動してください。行動時間は、天候、コース状況等で変更になる場合もありますが、以下の時間帯を予定しております。時間設定が二つあります。
 - ①「制限時間」：普通に歩いて全チームがゴールできる時間です。これを越えると今後の登山行動で、運営に支障が出る時間。部報にあるように、隊離脱扱いになります。可能なら自力で移動、支援が必要ななら行動離脱です。
 - ②「規定時間」：ある程度の力があればゴールできる設定時間。タイムレースではありませんので、時間内にゴールすれば要した時間に対する体力減点はありせん。この時間を越えるチームがあれば超えた時間に応じて体力点に差をつけます。詳細は審査委員会で決定します。

高千穂峰コース（高千穂河原～脊門丘の登り区間）

男子	規定時間	70分	制限時間	90分
女子	規定時間	80分	制限時間	100分

なお、変更があればチーム行動実施日の朝の引継ぎ式で連絡します。
- エ チーム行動途中に読図ポイントを置くこともあります。ポイント付近では休憩せず、休憩をとる場合は他の登山行動の邪魔にならないようにしてください。
- (6) 「審査確認事例12(7)」にあるとおり、GPS機能を有する機器は、所持してはならないですが、皆さんの安全を確保するためにチームに1台ずつ緊急連絡用の携帯電話（スマートフォン）の所持を認めます。その他の携帯電話は必ず預かり荷物に入れてください。緊急連絡用の携帯電話は、十分に充電してスイッチを切り、監督・リーダー会議時に提出できる状況にしてください。厳封して、返却いたします。厳封以外の携帯電話の所持および使用、緊急時以外の状況で厳封が解かれた場合には読図技術を0点とします。
- (7) 7月7日(日)の宿舎帰着後、旅館にてテスト類の返却を予定しています。詳しい場所・時刻等については当日連絡します。監督も同席してください。また、テスト類返却時の質問は、明らかな採点ミス以外は受け付けません。